

Phagri

2018年
1月
NO.195

ワカバ堂薬局
JR 守山駅東口グランドメゾン守山1F
TEL 077-583-8474
<http://www.phagri.com/>

◆冬の蕁麻疹、不安感、目の乾燥感に使える生薬◆

ただでも忙しい冬至の頃、友人のF君に無理をお願いして明石の海岸を案内してもらいました。目的は、ハマビシの実、タカラガイ、クコの実を見るためでした。

1) ハマビシ (白蒺藜=ビャクシツリ)

ハマビシの実はこの時期の蕁麻疹や皮膚のかゆみに使います。自転車通学の受験生がいました。寒風の中を帰宅し、家でほっこりしてくると蕁麻疹が出て、痒みで集中できなくなります。ハマビシの入った漢方薬を飲んでもらい楽になったことがありました。



ハマビシは海岸の砂浜で寒風に耐えて広がり、金平糖のような実を無数につけていました。

ところで、漢方では、寒冷蕁麻疹のような症状を「風」と考え、そのような症状を取り除く生薬を「熄風薬」とか去風薬と呼びます。強風、乾燥、温度差が引き金となって起こる湿疹や蕁麻疹に、同じような環境にさらされてたくましく根を張るハマビシが効くのは不思議です。まるで、強風、乾燥と昼夜の温度差にさらされても、細胞組織を破壊されずに再生してゆくハマビシの生存システムを、そっくり人がいたみたいたいです。

2) タカラガイ (貝齒=バイシ)



タカラガイは、拳を握り締めたような形をしたきれいな貝殻をまとっています。

漢方では、年末年始の疲れや緊張など、内的要因からくる不安・不眠・血圧の上昇や目の充血なども、体内の陰陽のバランスの乱れからおこる「風」の症状と考え、興奮を鎮める真珠や琥珀、タカラガイなどで陽気の昂ぶりを制御します。

そのタカラガイが浜によく打ち寄せられるのが冬なのです。波打ち際には、いろんな種類の貝殻が、重いものや軽いもの、大きいものや小さいものなど、それぞれに幾筋かの帯を作っていました。その帯に沿って歩いていると、貝殻細工をする人や、波で洗われたガラスの破片ばかりを探す人、枯れ木の木片ばかりを物色する人など、いろんな人とすれ違いました。出会うと「タカラガイならあっちの浜でたくさん見た」とか、いろいろと情報交換をし、獲ったものをもったりあげたりとか、結構楽しいコミュニケーションもあって、それだけでも緊張や不安に効きそうに思いました。

3) クコ (枸杞子=クコシ)

クコは寺や植物園などで時々見るのですが、病虫害で元気がないことが多く、「自生地で見たい」と、かねてから思っていたので、「まだ実が残っているかもしれない」と聞いたとたん、二つ返事で明石へ行くことにしました。

果たしてクコは、砂浜と高台の住宅地の間の土手の斜面に、ハマウドやノジギクと共に鬱蒼としたブッシュを形成していました。クコは、風や紫外線に強く、水はけのよい斜面を好む植物という印象を受けました。

枸杞子 (クコの成熟果実) は疲れ目や目の乾燥感、少しの風ですぐ涙が出るなどの症状に効く滋陰薬で、杞菊地黄丸や双料杞菊顆粒の材料です。

クコの本来持つ紫外線や風に強いというパワーが、杞菊地黄丸や双料杞菊顆粒の効果に反映していることが直感できただけで、明石まで行った甲斐がありました。

(虫の一分)

